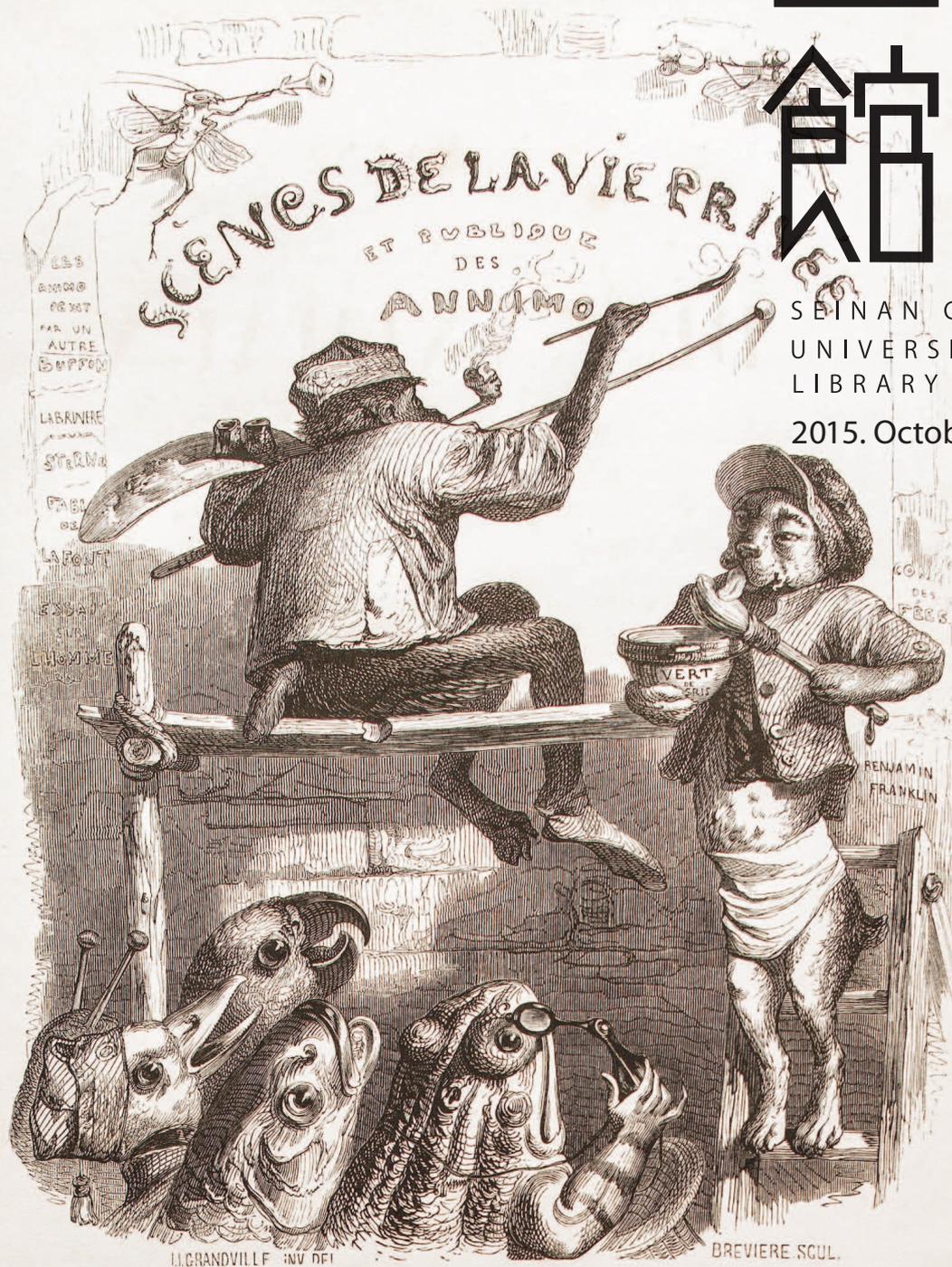


# 館報

SEINAN GAKUIN  
UNIVERSITY  
LIBRARY BULLETIN  
2015. October No.179



## 1 仙厓逍遙(その二)

図書館長 古田 雅憲

## 2 研究ノートから

「音楽や映画を語るツール」国際文化学部 国際文化学科 准教授 栗原 詩子

## ブラウジングルーム

「図書館ぶらり」神学部 神学科 准教授 日原 広志

## 3-4 新図書館建設に向けて

第5回 図書館に滞在する

図書情報課 永津 庸史

## 5-6 データベース紹介

JDream III・SciFinder 図書情報課 山下 大輔

## 7 蔵書ギャラリー no.20

『動物たちの私的公的生活情景』

文学部 外国語学科

フランス語専攻 教授 和田 光昌

仙厓さん(1750-1837)の描いた絵を多く収蔵する福岡市美術館には居心地のよい読書室がある。多彩な美術書や映像資料を気ままに眺め、お気に入りの一冊を見つけたらソファに腰掛け、ガラス窓越しに緑陰を感じながら頁を繰る——愛書家には幸せな一時だ。

今回はそこで手にした『仙厓 石村コレクション』(\*1)から「寒山拾得(かんざんじつとく)図」と題する一葉を掲げさせていただいた。「寒山拾得」と聞いて普通に想像するのは違って、朗らかで可愛らしい作品である。

寒山と拾得は、中国は唐代、天台山(浙江省にある霊山)周辺にいたとされる伝説的な道士である(\*2)。拾得は、天台山国清寺の豊干(ぶかん)禪師に拾われて寺に住み、煮炊き掃除の寺務に従ったと言われる人。その裏山に隠棲した寒山は、しばしば寺を訪れては自作の詩を拾得と詠み交わし、ついでに残飯を融通してもらって食していたと言われる人。仲良く遊ぶ二人の姿があまりに酔狂自在と見えただからか、やがて神聖視されるに及びとうとう文殊・普賢の化身として拝まれるようになった。そういうわけで「寒山拾得図」には、詩文を書いた卷子を持つ寒山と箒を手にする拾得とが、何やら目配せしながらミスティアスに微笑みあうといった図柄が多い(\*3)。

ちなみに二人の師である豊干禪師も偉い僧侶だったが、いつも虎の背に乗り徘徊しては村人を大いに驚かせるような人だったとか。彼ら三人と一匹は世俗を超越する「風狂」という禅的価値の体現者として、みんな仲良くまどろむ姿で描かれたりもする——いわゆる「四睡(しすい)図」である。

仙厓さんも多くの「寒山拾得図」を描いた。出光美術館だけでも30点は所蔵する(\*4)。もともと仙厓さんの描くものは異様だったり不気味だったりはいらない(ごく一部を除いて)。たとえば若い頃(56歳)に描いた対幅(ついふく)は「飄々として」「明るくさわやか」と評される(\*5)ものだし、晩年に描いた本図も可愛らしい一品だ。

画面上方、卷子を広げているのが寒山である。墨を多めに含ませた筆を寝かせて用い、息の短い線を連ねて蓬髪と道服をグイグイと描いている。仙厓さんの他の寒山図にも見られる描き方だ。一転して下半身では力を抜いた筆をスイスイと運び、太めの輪郭線だけを用いてスツとたたずむ様子を描き出す。シンメトリカルなその立ち姿は「阿(あ)」と声を発する朗らかな笑顔と相まって、言うなれば「静」また「陽」。



※図版…福岡市美術館蔵(石村コレクション)「寒山拾得図」(9-B-13)

画面下方の拾得は力みかえって、手にした箒もC字型にしなうほど。立てた筆を自在に滑らせた細線で全身の輪郭をざっと描き散らし、その上から寝かせた筆で上着を塗り込めている。最後に筆を擦りつけるように使って蓬髪を描き添えた。左足を跳ね上げたその立ち姿は「呬(うん)」と声を発する顰めっ面と相まって、言うなれば「動」また「陰」。

まさに「あうんの呼吸」、二人好一対である。仙厓さんは「一葉のうちに阿(万物の始まり)と呬(終わり)の一体なるを見よ」とでも言うておいでなのだろうか。

賢に「南無からたんのふ そこのけそのけ」と言う。「ナムカラタンノー(南無喝囉囉那)」とは、禅林でよく詠唱される「大悲心陀羅尼」という經典の冒頭。描かれた寒山はお経を詠んでいたのだ。問題は拾得の「そこのけそのけ」である。たぶん掃除の邪魔だからということなのだろうが、いったい誰を追い払っているのか?

一つには、この絵の前で禅の深義を解き明かしてやろうとばかりに難しい顔をしている鑑賞者。「阿呬の一体を」としたり顔で絵解きする私もその一人だ。「寒山みたく無心に笑え、笑わぬならばそこのけそのけ」と仙厓さんの喝が聞こえてきそう。

もう一つは妄想めいて。「大悲心陀羅尼」はたぶん有り難いお経なのだが、「ナムカラタンノー」の後には「トラヤーヤー(唵囉夜耶)」と続くのだ。ちょっとコミカル。その「トラヤーヤー」を唱え慣れた仙厓さんが、ある日、ふと「拾得が『やあやあ虎よ、掃除の邪魔だ、そこのけそのけ』と言ったなら面白い」と思いついたとすればどうだろう。前回の「指月布袋図」で「見えない月」を見せてくれようとした仙厓さんなら、この図で「見えないけれども傍にいるはずの虎が、今しも追い払われて本当に見えなくなる瞬間」を描いたとしても不思議はない。

虎は拾得にとっては恩師の眷属。また「寒山・拾得・豊干・虎」は「風狂四人組」として互いに切っても切れない仲、大切な係累だった。仙厓さんは、虎を追い払う拾得の姿を鑑賞者の心内に幻視させることで「拾得が虎を追い払うように、あなたもまた大事なものを捨て去るならば、寒山みたく無心に笑えようものを」と諭しておいでなのかも知れない。

この絵が描かれたのは仙厓さんが78~83歳の頃、たぶん81か82歳の頃だった——その時期に集中して用いられた「日月三郎」の印章が押されているから(\*6)。晩年を迎える仙厓さんからのメッセージ、読者のみなさんはどう御覧になるだろうか。

### 参考文献

- (\*1) 福岡市美術館編『仙厓 石村コレクション』石村萬盛堂,2005(開架4階 721/7/21)
- (\*2) 二人を題材に森鷗外が「寒山拾得」という小品を書いている。木下奎太郎ほか編『鷗外全集』岩波書店,1971-1975(開架4階 918/6M/4-16)など。ほかに井伏鱒二、芥川龍之介にも同名の小品がある。
- (\*3) 田中一松ほか著『水墨美術大系(全17巻)』講談社,1973-1977(大型本(開架2階) 720/82/5-1~17)
- (\*4) 出光美術館編『仙厓』出光美術館,1988(大型本(開架2階) 721/7/18)
- (\*5) 出光美術館編『仙厓/センガイ/SENGAI:禅画にあそぶ 没後170年記念』出光美術館,2007(開架4階 721/7/19)
- (\*6) 中山喜一郎著『仙厓の○△□:無法の禅画を楽しむ法』弦書房,2003(開架4階 721/7/22)

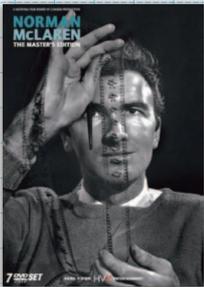
※本年12月1日から福岡市美術館において「仙厓展」が開催されます(来年1月31日まで)。

## 音楽や映画を語るツール

国際文化学部 国際文化学科 准教授 栗原 詩子

音楽や映画は、時間を追ってどんどん変容する芸術領域です。かつては「たえずむさぼり、しがみつくな必要があるので(中略)根本的に思考性が欠如している」(注1)とさえ言われました。根本的に思考性が欠如……それはいわば「研究対象としてボツ」ということですから、音楽や映画の研究者を目指していた高校時代の私にとって、それはかなりショックな指摘でした。趣味のディレクター(好事家)として音楽や映画をむさぼるしかないと劣等感も覚えました。

しかし90年代に、漫画・化粧・ファッションなど、あらゆるイメージを分析的に語る「表象学」が、数多くの大学の学科として設置されるよ



マクラレンDVD7枚組(注4)

うになり、そんな不安は、いつのまにか一掃されました。今日では、音楽や映画についてレポートを書くための大学生向けガイドブックも次々に出版され(注2・注3)、ある録音なり録画なりの、ある瞬間を明瞭に把握しながら、体験や仮説を順序立てて語る場が開かれています。

そうした流れの中、私は、ノーマン・マクラレンという映画作家の作品研究(注4)を

ずっと続けています。彼は、アニメーションというものを「目に見えない間隔を操る芸術」と定義して、「何を描くか」には殆どこだわらなかった、珍しいタイプの映画作家です。

さて、モノとしての姿と私たちが感じとる事柄との間の落差があり(注5)、楽譜やフィルムのような「モノ」をどう「再現」するかによって体験内容が大きく異なるのも、音楽や映画に共通する特質です。デジタル技



近年の映画学入門書(注6)

術が身近になるにつれて、音楽では、コンピレーションやボーカロイドに代表される音声合成システム、映画では、劇場版と普及版、そしてディレクターズ・カットなど、検討すべき切り口がますます増え(注6)、精神分析・フェミニズム批評・イデオロギー研究といった、他の学問領域との接点も充実しています(注7)。

注1: ロラン・バルト著花輪光訳『明るい部屋—写真についての覚書』みすず書房、1985(開架4階 740/1/2)(原書は同階 954/B6/10) / 注2: リチャード・ウィンジェル著宮沢淳一他訳『音楽の文章術—論文・レポートの執筆から文献表記法まで』改定新版、春秋社、1994(開架4階 760/7/80) / 注3: 小野俊太郎著『映画でレポート—卒論ライティング術』松柏社、2011(開架4階 778/04/203) / 注4: (DVD) Norman McLaren: The Masters Edition, Homevision, 2006(開架1階(視聴覚) 778/DVD/NOR) / 注5: ヘンリッヒ他編『芸術哲学の根本問題』晃洋書房、1978(開架2階 130/8/4-4) / 注6: バックランド著前田茂他訳『フィルムスタディーズ入門』晃洋書房、2007(開架4階 778/0/34) / 注7: マイケル・ライアン、メリッサ・レノス著田畑暁生訳『映画分析入門』フィルムアート社、2014(開架4階 778/0/30)

## ブラウジングルーム

### 図書館ぶらり

神学部 神学科 准教授 日原 広志

陸上競技と映画鑑賞に明け暮れた私の(最初の)学生時代。大学図書館とは学究の場というより潜入して雰囲気を楽しむ秘境のようなものでした。いかにも大学生になったような気分を味わえるというか(なっているのに…)。学生の皆さんも“柄じゃない”と思う人ほど“図書館ぶらり”をやってみると良いですよ。学生相談室並みに森林浴効果が得られます。

さて、大学図書館の入館ゲートを抜けるとやはりすぐ目につくのがDVDコーナー!ソビエト映画もあるのが嬉しい限り。でもその奥のVHSビデオ棚を見ると時代の変遷で引退を余儀なくされる媒体の悲哀が感じられ、本という形態と図書館の必要性を改めて思わされます。2階に上って左手に行けばキリスト教関連書があふれています。宗教は敷居が高いと思う漫画好きはスヌーピーの4コマ漫画から入れる



ロバート・ショート(滝沢陽一訳)『ピーナッツ福音書』初版、日本基督教団出版部、1966年などは如何。3階は人間の生の現実の様々な領域の本がひしめいています。今年度の全学チャペルで客員教授J・マゴネット先生は「ヘブライ語聖書はポータブ

ル図書館のようなもの」と講話されましたが、フロアをぶらつくと、おおまかに、ここに律法、隣に預言書、あちらに見えるは知恵文学といった趣きで、改めて聖書の扱うジャンルの広がりを再確認できます。開架のぶらり旅は4階まで。この児童書には17年前の神学生時代お世話になりました。干隈の神学寮から自転車飛ばして教会学校や幼稚園の聖話素材を探したものです。イエスの十字架を被造物の視点から描いたS・ラーゲルレーウ作(中村妙子文、高瀬ユリ絵)『むねあかどり』初版、日本基督教団出版局、1989年は名作です。最後にコピー機の隣にロマン・ローラン(豊島与志雄訳)『ジャン・クリストフ』全4巻>改版、岩波書店、1986年を発見。おお懐かしい。大学で挫折を経験した学生時代後半の愛読書でした。昔は旅先の古本屋で同書を見かける度を買って“これは佐賀のジャン・クリストフ、こっちは金沢のジャン・クリストフ”と自宅に並べてました(何の意味があったのか…)。作中に登場する“善良なるサマリヤ人”“天使と闘うヤコブ”“燃ゆる荊”などのモチーフが聖書の物語であることを知ったのはずっと後にクリスチャンになってからでした。

現在は専ら閉架にお世話になっていますが、夏場は蒸し器の中に入る状態となります。熱中症にご用心を。

#### 参考文献

S・ラーゲルレーウ作『むねあかどり』中村妙子文、高瀬ユリ絵、日本基督教団出版局、1989【開架4階 909/ム(みどり)】

## 「図書館に滞在する」

図書館情報課 永津 庸吏

月日が経つのは早いもので、「新図書館建設に向けて」の連載も今回で5回目を迎えました。5月に起工式が執り行われ、建設工事が始まり、この原稿を執筆している現在も事務室の外からは新図書館建設工事の音が聞こえてきます。1年後に

は建物が出来上がり新図書館への引越し作業が始まると思うと、少し不思議な気持ちになります。

さて、今回は「図書館に滞在する」をテーマに、新図書館についてご紹介していきたいと思っています。

### 1. 滞在型図書館

昨今、新しい図書館の開館には「滞在型図書館」という言葉がついて回るようになりました。みなさんはこの言葉を聞いた時、どういったことをイメージするでしょうか。年中空調が効いていて快適、文具や飲食物など必要なものを館内で調達できる、といった施設や設備に関することを真っ先に考える方もいれば、自由に飲食ができる、24時間開館している、といったサービスに関することを考える方もいるでしょう。滞在型図書館に対する定義はしっかり決まっているわけではありませんが、一般的に言われることとして

- ①館内で飲食が可能、またそのための購買設備がある
- ②調査や読書をするための快適な空間設計
- ③資料の貸出・閲覧だけではなく多目的な利用が可能

といった点がどの滞在型図書館にも共通しているようです。よく図書館を利用している方々にとっては、図書館といえば静かに本を読む場所で、館内での私語や、本を汚す危険のある飲食物の持ち込みは厳禁というイメージが定着しているのではないのでしょうか。実際に、西南学院大学図書館でも館内の飲食や私語、携帯電話での通話は原則禁止としています。しかし、新しく開館する図書館の多くで、これまで禁止が当たり前だったことがそ

うではなくなってきています。館内に飲食スペースを併設したり、声を出して他の利用者や交流できる歓談スペースを設けたりすることで、利用者が長時間滞在しやすい環境を整える図書館が増えています。

冒頭で「昨今」と書きはしましたが、「滞在型図書館」という言葉は1990年代に入った頃から頻繁に使われ出したようです。当時は特に公共図書館の方向性を示すために使われていた言葉で(植松、1995)、利用者が目的の資料を見つけたら借りてすぐに帰ってしまう従来の利用型ではなく、様々なサービスを提供することで長時間滞在してもらい、地域の人々の憩いの場、文化交流の場としての役割を図書館が持つことを重要視するようになったのです。そこには施設の存続を維持するために利用率を上げなければならないといった事情もあったようですが、利用者や時代のニーズに対応しようとした結果、公共図書館がそのような方向を向くことは必然だったようにも感じます。そうして、「滞在型図書館」は現在に至るまで図書館界のトレンドとして発展的に続いており、大学図書館においても、アクティブ・ラーニングをはじめとした学びの形態変化に伴い、滞在型図書館への需要が高まってきているのです。

### 2. 滞在型図書館の例

具体的に滞在型図書館についてイメージしやすくなるよう、事例をご紹介します。以下に挙げた図書館はどちらも滞在型図書館として先進的な取り組み

をしており、我々としても参考になる部分が沢山あります。いずれも利用者の目線に立った空間作りが利用者の滞在をサポートしています。

#### ① 明治大学和泉図書館(東京都杉並区)

2012年5月にオープンした明治大学和泉キャンパスの新図書館。「入ってみたいくなる図書館」を設計コンセプトに、多様な空間を作り、多数の閲覧席を設け、長時間滞在型の図書館を謳って運営されています。また、和泉図書館の大きな特徴の一つが「音のゾーニング」を意識して設計された構造です。1階の賑やかなエリアから4階の最も静かなエリアまで段階的にゾーニングされ、音を遮蔽するガラスを効果的に用いるなど構造物にも工夫が

されています。4階の最も静かなエリアでは個室以外でのPCの使用さえ禁止して静寂さを演出するなど、利用者の多様なニーズに応えています。さらに、音の空間性を視覚的に認識させるため、内装や家具の色調をゾーニングに合わせて変えたり、「利用者を優しく包みこむ空間」を意識した資材を用いたりするなどのこだわりも利用者の滞在を後押ししています。

<http://www.lib.meiji.ac.jp/use/izumi/guidance/>

## ② 武蔵野プレイス(東京都武蔵野市)

2011年7月にオープンした武蔵野市の複合機能施設。図書館をはじめとして多様な施設が併設され、様々なライフステージに対応した滞在型図書館を目指した公共施設です。地下1階を図書館の中心とし、同2階には青少年を対象とした音楽スタジオやラウンジとアート&ティーンズライブラリー、地上1階にはカフェやギャラリーやマガジンラウンジ、2階には児童書と家族で楽しめるテーマライブラリーを設置するなど、非常に工夫が凝らされています。館内は吹き抜けて開放感が

あり、音を制限するのではなく敢えて賑やかな空間を演出することで、居心地の良い空間作りを狙っています。また、ビジネスパーソン等、普段は図書館を利用しにくい方々にも利用してもらえるよう全開館日で開館時間を拡大。様々な取り組みが話題を呼び、オープン当初は年間利用者数を80万人と想定していましたが、現在は2倍を超える160万人が地域の憩いの場として利用しています。

<http://www.musashino.or.jp/place.html>

## 3. 新図書館に滞在してもらうために

さて、これまで滞在型図書館について書いてきましたが、西南学院大学の新図書館では「滞在型図書館」という言葉を直接謳っているわけではありません。しかし、そのコンセプトには、利用者の様々なニーズに対応し、図書館に滞在して学習、研究、そして交流の場として長期滞在しながら利用してもらいたいという思いが込められています。ここでは、滞在型図書館として利用できる新図書館のポイントをご紹介します。

### ① 飲食、休憩スペース

1階にコーヒーや軽食を提供するカフェスペース、そして3階から6階の各階には自動販売機を設置した休憩スペースが設けられ、そのエリアでは飲食や携帯電話での通話ができる予定です。これまでは飲み物を買うにも一度図書館の外に出て購入する必要がありましたし、食事も取れませんでした。新図書館では試験勉強や調査・研究、論文執筆などで図書館を長時間利用する場合でも、館内を移動するだけで簡単な食事を取ったり、休憩スペースで気軽に飲み物を購入して休憩したりすることができるようになります。

### ② ニーズに合わせたゾーニング

1階から3階は「アクティブ・ゾーン」(仮称)として、ラーニング・コモンズを中心に、様々な設備を導入する予定です。本連載第4回「アクティブ・ラーニング実践」でも一部ご紹介しましたが、ライティングサポート、ITサポートスペース、国際機関資料室、グループ学習室やプレゼンテーションスペース等の発表エリア、視聴覚ブース、多目的室といった、利用者の様々なニーズに応える設備を設けます。1人で資料を閲覧しながら学習、研究するための図書館ではなく、図書館にある様々なリソースを用いながら利用者同士で意見を交わし合い、交流を深められる場所になるはず。もちろん、従来通り静かに図書館を利用したい方々もたくさんいらっしゃるでしょう。4階から6階は「サイレント・ゾーン」(仮称)と位置づけ、落ち着いて読書や学習をすることができます。

### ③ 資料へのアクセシビリティ

現在の図書館に比べ、開架エリアが大幅に広がります。開架エリアに配架する資料の冊数は開館時でおよそ60万点を予定しており、多くの資料を手にとって閲覧してもらうことができるようになります。また、書庫は自動書庫となりますので、書庫にある資料も1階もしくは4階で手続きをすれば、5分程度で簡単に取り出し利用することができます。資料へアクセスがしやすくなるとともに、資料の豊富さも実感してもらえるのではないのでしょうか。多くの資料を活用しながら、学習や研究活動を効率的に行うことのできる空間を目指しています。

また、館内には160台を超える多くのPCを設置し、貸出用ノートPC50台も別に用意します。データベースをはじめ、オンライン上の様々なリソースにも館内から簡単にアクセスすることができます。

### ④ 人的サポート

設備の充実だけでなく、人的サポートの充実化も図ります。資料探しや調べ物で困ったことがあれば、現図書館でも行っているレファレンス・サービスを使ってください。解決の糸口が見つかるはず。また、PCをはじめとしたICT資源の利活用をサポートするスタッフや、論文の書き方などのライティングサポートを専門とするスタッフが利用者支援を行う予定です。こうした人的サポートを利用すれば、例えばある事柄について調べるとき、そのことについて調査し、ゼミのメンバーで議論を行い、発表論文にまとめるといった一連の流れを全て図書館の中で行うことができるのです。

### ⑤ 気軽に立ち寄れる図書館

学習や研究のための図書館ではありますが、新図書館は憩いの場としての機能も持ち合わせるようになります。1階には新聞や一般雑誌が並ぶ予定ですので、カフェで買ったコーヒーを飲みながら雑誌や新聞を読んだり、視聴覚ブースで気になるDVDやBlu-rayを観たりと、授業の合間や休日に図書館でのんびり過ごすことで気分をリフレッシュさせてください。

## 4. 最後に

図書館を利用する目的は、「学び」に直接関係することからそうでないことまで様々です。しかし、どんな理由であれ、訪れる人がまた利用したくなる図書館であって欲しい。我々はそのような思いで新図書館建設を進めていますし、その結果が滞在型図書館だと思うのです。そのためにはハード面の充実はもちろんのこと、スタッフのスキル向上も必要です。多種多様な問合せに対応できる専門知識はもちろん、サービススキルも向上させなければなりません。仮に図書館スタッフとの

### 【参考文献】

植松貞夫「滞在型図書館(施設)のなかの住居」建築雑誌,110(1350),p44-45,1995  
松本秀人「観光および図書館の現状と課題」観光と図書館の融合,5,p8-27,2010  
馬渡誠治(他)「新和泉図書館の設計における取り組み」図書館の講:明治大学図書館紀要,17,P7-17,2013  
明治大学図書館ホームページ<<http://www.lib.meiji.ac.jp/index.html>>

コミュニケーションで嫌な思いをすれば、おそらくその人は図書館を利用しなくなるでしょう。逆に、コミュニケーションを通して図書館に来てよかったと思っただけであれば、その後もきっと頻繁に使っていただけるはずです。

教育の場としての図書館とサービスを提供する場としての図書館、どちらもバランス良く合わせもった快適な空間を作り出すため、みなさんの声を聞きながらしっかりと準備を進めていきたいと思えます。

武蔵野プレイスホームページ<<http://www.musashino.or.jp/place.html>>  
「武蔵野市立ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイス 従来の枠を超え、人々を魅了する「場」へのチャレンジ」PASSION,34,2012  
<[http://www.kongo-corp.co.jp/passion/PASSION\\_Vol34\\_text/pg34\\_04.html](http://www.kongo-corp.co.jp/passion/PASSION_Vol34_text/pg34_04.html)>  
Web参照はいずれも2015年9月7日まで

DATABASE

# データベース 紹介

今回は、自然科学分野のデータベースを紹介します。学内でも、認知度は低いように思いますが、利用方法等を覚えれば、それぞれ、関連分野でも利用できる内容のものであります。ぜひ、存在を知っていただき、少しずつ活用の幅を広げてみてください。

図書情報課 山下 大輔

## JDream III

アクセス方法：図書館HP>データベース>テーマから探す>自然科学

JDream III検索サービスは、独立行政法人科学技術振興機構(JST)が作成し、株式会社ジー・サーチが提供する科学技術や医学などのデータベースにアクセスして、手軽に検索できる文献情報検索サービスです。特徴としては、以下の点があげられています。

- 約5,800万件(2013年1月現在)の記事を収録する日本最大級の科学技術文献データベースです。
- 論文毎に、人手により概要(抄録)を作成し、キーワードを付与しています。
- 外国文献についても、抄録等を日本語で作成しています。
- 科学技術総合データベースで、分野を意識することなく欲しい情報が得られます。
- 検索結果から原文の複写申込みや、リンクをたどって原文の入手(一部文献のみ)ができます。

JDream IIIの情報源は科学技術に関する学術雑誌や専門誌、公

共資料に限られており、信頼性の高い検索結果を得ることができません。また、外国文献であっても、日本語で記事内容をまとめた概要(抄録)がありますので、多くの情報の中から必要なものを見つける時にはとても便利です。

収録内容は、以下の表のとおりです。

データベース名	収録情報	収録年代(更新頻度)	収録件数	年間収録件数
JSTPlus	科学技術(医学を含む)全分野に関する文献情報。世界50数カ国の情報を含む。	1981年4月~1981年3月(月4回)	約2,471万件	約70万件
JST7580	科学技術全分野に関する文献情報。世界50数カ国の情報を含む	1975年4月~1981年3月(更新無し)	約214万件	更新無し
JMEDPlus	日本国内発行の資料から医学、薬学、歯科学、看護学、生物科学、獣医学等に関する文献情報を収録。	1981年4月~(月4回)	約662万件	約37万件
JCHEM	化学物質の商品名、治験番号、体系名、化合物辞書番号、CAS登録番号、分子式などの情報。	(月1回)	約314万件	-
MEDLINE	米国国立医学図書館(NLM:National Library of Medicine)が作成・提供する医学およびその関連領域を対象とする文献情報。	1946年~(週1回)	約2,071万件	約50万件
JSTChina	中国国内で発行される科学技術資料のうち、JSTが厳選した約770誌に掲載された文献情報。	1981年~(月2回)	約99万件	約10万件
JAPICDOC	日本医薬情報センターが作成・提供する医薬品の有効性、安全性に関する文献情報。	1983年4月~(月1回)	約42万件	-

実際の利用例として、人間科学部鹿島先生より、JDream IIIの利用について、以下のコメントをいただいています。

<コメント> 人間科学部 児童教育学科 准教授 鹿島なつめ

専門性の問題から、臨床事例が掲載されている学会誌はwebによる公開が行われていません。そのため、自分の臨床事例の今後の方針について、購読していない学会誌の内容も含めて検討したい時に、MEDLINEを使用しています。MEDLINE内の抄録を読んで気になった論文を取り寄せて、臨床のための参考文献に加えています。



▲検索画面

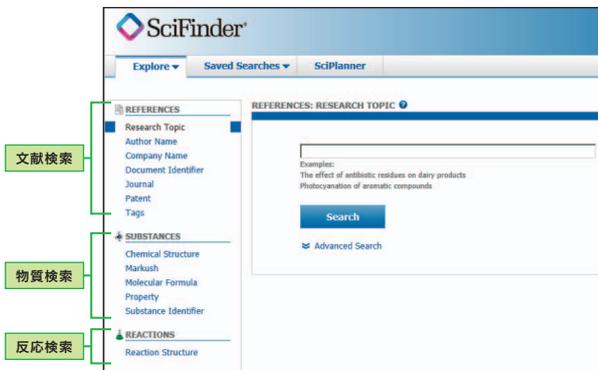
アクセス方法：図書館HP>データベース>テーマから探す>自然科学

SciFinderは米国化学会の情報部門であるChemical Abstracts Serviceが提供する物質科学関連分野(有機化合物・無機化合物・高分子・タンパク質など)で世界最大のデータベースです。物質科学関連分野の文献(特許および雑誌論文)・物質・反応情報が調べられるため、世界中の企業および大学の環境科学・栄養学・生命科学・薬学・化学・材料工学など物質科学関連分野の研究者に活用されています。

SciFinderの魅力は、物質科学分野の情報の網羅性です。文献は50言語で書かれた物質科学関連分野の論文と特許を世界中から収集しています。このため、SciFinderを用いれば物質科学関連分野の文献を網羅的に検索できます。また、PubMedの商用データベースであるMEDLINEも同時に検索しているため、医学文献情報もあわせて検索可能です。物質についても収録数が1億6千万件以上と、世界で最も多くの物質を収録しているデータベースです。

SciFinderのトップページ(図1)には多彩な観点から検索可能な入口が用意されています。キーワードだけではなく、化学構造式や分子式、物性値などからの情報検索も可能です。また、文献や物質情報だけではなく物性やカタログ情報など物質科学関連分野に必要な情報(図2)をSciFinderの中でまとめて調査することが可能です。

(図1)



人間科学部松村先生より、具体的な使用例をいただきましたので、ご紹介します。

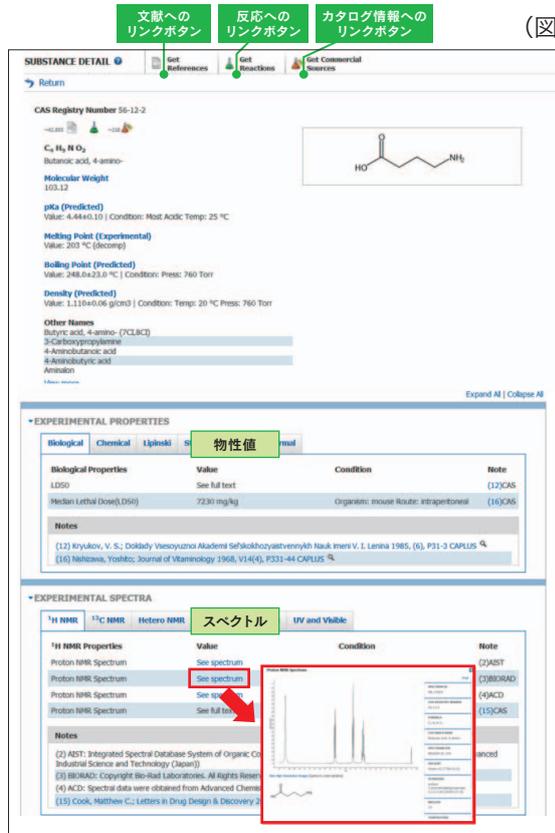
### 「SciFinderを利用してシャボン玉の論文を作成」

人間科学部 児童教育学科 教授 松村敬治

私の専門は、構造化学で、光を用いて物質の精密な構造を決定する研究に従事している。専門分野の研究は、関連学会に出席し、専門誌も読んでいたので、研究の動向はある程度把握できるので、研究のプライオリティを意識しなくてもある程度研究を進めることができる。ところが、別分野となると、何がすでに行われていて、何がまだ解決できていないのか皆目分からない。そのため、別分野で研究成果を出したとしても、論文に仕上げて行く価値があるかどうか判断できない場合がある。そんなとき、SciFinderは有力な味方となる。

私がシャボン玉の研究を始めたのは、シャボン玉に魅せられた学生

(図2)



の影響を受けたからである。シャボン玉が美しいと感じる理由の一つに、透き通った薄い膜が虹色に輝いて見える現象が挙げられる。この虹色の輝きは、シャボン玉の膜の内側と外側の面で光が反射するとき起きる干渉によるものであり、シャボン玉の膜の厚さに関する重要な情報を与える。私たちのグループは、このシャボン玉の干渉を高速の紫外可視分光器で観測してシャボン玉の膜厚を正確に決定するとともに、シャボン玉の膜厚が約1ミクロンの厚さで絶えず変動していることを確認した。しかし、この成果を論文として発表するための準備をするとき、他の誰かがすでに同じような研究を発表しているのではという疑問と不安が常につきまとった。そのとき、タイミング良く、本学図書館でSciFinderが使えることがわかり、早速、利用させてもらうことにした。

SciFinderの検索画面で「soap film thickness measurement」を入力すると、世界中で出版されている雑誌・論文の中で、「セッケン膜」に関する論文が2,092点、「セッケン膜と膜厚の測定」に関する論文が21点あることがわかった。そこで、後者の21点について抄録を読むと、7点の論文がシャボン玉の研究に関係していることがわかり、それらの論文を精査することにした。SciFinderができることはここまでで、後は本学の図書館や他大学の図書館の蔵書の中から論文を見つけて閲覧して、2点の論文を参考文献に加えることでシャボン玉の論文を完成させることができた。

このようにSciFinderは、居ながらにして世界の各地でどんな研究が行われているかを把握できるので、研究者の必需品の一つになっている。

## 『動物たちの私的公的生活情景』

[開架 957/G773/1-1~2]



【図1】イギリス牝猫の恋の悩み



【図2】アフリカライオン、パリへの旅



【図3】人間動物園

『動物たちの私的公的生活情景』(Scènes de la vie privée et publique des animaux)は、1840年から41年にかけてフランスで刊行された二巻本のロマン主義挿絵本である。ジュール・ヴェルヌの『驚異の旅』シリーズを世に送り出したことで知られる編集者ピエール=ジュール・エツツェルの若き日の出世作とされるが、その理由は、バルザック、ミュッセ、ジョルジュ・サンドなど当代一流の作家にテキストの執筆を依頼したことばかりにあるのではない。何より、挿絵を重視し、「テキストをはっきりわからせる」という、テキストに従属的な従来の役割以上のものをイラストに求め、それをグランヴィルに託したことにあった。挿絵画家としての地位向上を願うグランヴィルを起用することによって、野村正人によれば、「テキストも挿絵もそれぞれの独自性を保ったまま、お互いに協力しようという関係が成立したのである。」※

タイトルが示す通り、この挿絵本は、人間を動物に置きかえて風俗を諷刺する趣旨の人獣戯画である。体面を重んじ、形式にこだわるイギリスで暮らすイギリス猫が、気さくで自然な魅力に溢れるフランス猫に出会い、心惹かれたことにより、密通のかどで裁判にかけられる「イギリス牝猫の恋の悩み」(図1)や、当時「ライオン」と呼ばれたパリの伊達男を一目見ようと、アフリカから見物のために(じつは捕獲されて)首都にやってくる「アフリカライオン、パリへの旅」(図2)などの話が収められている。きちんと服を着こなした動物たちの姿を描くグランヴィルの挿絵の迫力は圧倒的で、たしかに挿絵の独自性、あるいは

テキストに対する挿絵の優位さを感じられる。

この印象は、二巻本の最初と最後に収められた挿絵を比べるとさらに強まる。表紙にある最初のもは、動物たちの見守るなか、猿が本書のタイトルを、フランス語の綴りを間違えながら(ANIMAUXをANNIMOと)書くという、微笑ましいとも言える絵だが、最後(図3)になると、檻に閉じ込められた人間たち(そのなかには、上にあげたイギリス牝猫やアフリカライオンの話の作者バルザックも含まれている)を動物が見物する「人間動物園」が描かれており、さらにそれをグランヴィルが絵に描くという、ユーモアはユーモアでも、ブラックユーモアと呼ぶ方がふさわしいものになっている。人間の姿をした動物たちを描くことで、グランヴィルは、テキストを書く作家から独立するどころか、彼らを捕獲し告発しようとさえしているかのようだ。イメージのテキストに対する独立あるいは優位は、人間に対する動物の独立あるいは告発に置きかえられているのである。そんな目で最初の挿絵(表紙)を見直してみると、猿の書く«annimo»も、単なる綴りの誤りではなく、そこに脱構築の哲学者ジャック・デリダの造語«animot»(「動物を追う、ゆえに私は〈動物で〉ある」)に通底するものさえ感じとられてくる。多様で個別的な動物たちをひとくりにanimal(動物)と命名する、人間のことば(mot)の暴力を告発するデリダの«animot»は、グランヴィルの«annimo»と似ているではないか。

※野村正人著『諷刺画家グランヴィル:テキストとイメージの十九世紀』水声社,2014 (開架4階 726/5/248)

## 編集後記

来年の秋には、順調にいけば新図書館への資料移設を開始しています。図書館は、膨大な過去の蓄積が、様々な思いと共に眠っています。改めて長い過去と向き合いながら、資料の確認と整理を進めています。今の図書館と過ごすのも、あと1年と少し。最後の季節が始まります。過去と向き合う中で、新たな出会いもあることを楽しみに…。

(D.Y)

## 西南学院大学図書館報 No.179

2015(平成27)年10月30日発行

編集 図書館報編集委員会

発行 西南学院大学図書館

〒814-8511 福岡市早良区西新6丁目2番92号

TEL (092) 823-3426

<http://www.seinan-gu.ac.jp/library/>

図書館報バックナンバー(No.153~)も上記サイトに掲載しています。